

# 県民の声を生かした

## 山口県のみちづくり



道路整備のあり方について全国的に見直しが議論されている今、山口県の道路は今後、どのように整備を進めていけばよいのでしょうか。山口県の道路づくりについて、山口県土木建築部長の中崎光浩さんと道路建設課長の中井文雄さんに、山口県建設業協会会長の藤本宏司会長がお話をうかがいました。

### 特集対談

ご出席

山口県土木建築部長	中崎 光浩
山口県土木建築部道路建設課長	中井 文雄
山口県建設業協会会長	藤本 宏司

聞く！

語る！

#### 時代に即した

#### 道路整備を目指す

#### 山口県「ジョイフル

#### ロード構想」

会長/まず最初に、山口県の道路の現状と将来像について、おうかがいしたいのですが。

中崎/山口県では「県土1時間構想」の推進に向けて、高規格幹線道路をはじめ県道から市町村道に至る一貫した道路網整備に努めてきました。その結果、県内におい

ては主要都市間の移動やインターチェンジなどの交流拠点へのアクセスの時間を、おおむね1時間とすることができました。

しかし、近年の社会環境の変化により、高速交通体系の整備による地域間格差の是正や、一日行動圏の拡大による地域間交流の促進に加え、身近な生活道路としての質の充実への要求の高まりや、通勤・通学・買い物・医療など生活に密着した道路整備やゆとりの時間の創出などが強く求められており、これらに対応した道づくりが必要となっ

ています。このため、山口県では「やまぐち未来デザイン21」の策定を契機に、地域間の移動時間の短縮をさらに充実するとともに、新たな快適歩行空間の創造を課題とした道路整備の長期構想として「ジョイフルロード構想」を策定し、それにもとづいた整備を現在進めているところです。

会長/その「ジョイフルロード構想」とは、どんなものなのでしょうか。中井/「ジョイフルロード構想」は、ジョイフルドライブとジョイフルウォークという2つの柱で構成されています。

まずジョイフルドライブは、「県土1時間構想」の移動時間の短縮に加え、「交流エリアの拡大」を目指し、福岡市や広島市への2時間エリア、空港までの1時間エリア、新幹線駅やインターチェンジまでの30分エリアの拡大を図ろうというものです。ジョイフルウォークについては、

### 特集対談

聞く！

語る！

快適な歩行空間の創造を目指し、歩行者の立場にたった、人によさしい道づくりなどの質の充実を図っていくことというものです。

会長/もう少し詳しく説明していただけますか。

中井/ジョイフルドライブは、2010年にむけて高速道路等の高規格幹線道路網の整備による県境を超えた交流・連携の促進や高規格幹線道路網と調和した国道・県道・市町村道の整備によるインターチェンジ・空港などへのアクセスの向上を図るものです。

一方、ジョイフルウォークは、幅広歩道の設置や電柱の地中化によって歩行者・自転車・車いすを使う人などが安心して利用できる広い歩行空間の確保や、歩道の段差解消などにより、バリアフリー化を進めるものです。

会長/道づくりの中心が「車」から「人」へと変わってきたということですね。そういうのは最近「自然環境」への配慮もより求められるようになりましなね。

中崎/そうですね。バブル経済の崩壊後の経済の低迷とこれに起因する財政制約に加え、少子高齢化



中井 文雄  
Humio Nakai  
山口県土木建築部道路建設課長

会長/今後の道路づくりを検討する上で、どのようなことに留意して取り組むことが大事だと思いますか。

中崎/利用者や住民が求める目標や効率的な計画を策定し、推進していくこと。利用者や住民が納得できる制度やシステムの改善、改革を行っていくこと。そして事業の透明性を確保することが大事だと考えます。

そこで山口県ではその一環として、県民の皆様から直接ご意見をうかがって、それを平成15年度以降の道路整備計画の策定に反映させていこうと、昨年の夏、県内6カ所の会場で「山口

#### 全国に先駆けて開催

#### 「山口県の道リレーフォーラム」



藤本 宏司  
Koji Fujimoto  
(社)山口県建設業協会会長

県の道リレーフォーラムを開催しました。

会長/そのリレーフォーラムは、全国的に先駆けともいえるユニークな試みだったそうですね。

中井/はい。計363名の県民の皆さんにご参加をいただき、さまざまな意見や要望をうかがうことができました。

#### 「ジョイフルロード」の言葉の意味は

「ジョイフルロード構想」は、道路整備を進めるために、歩行者の立場に立った人によさしい道づくりなどの質の充実を目指しており、道路を使う人が「にぎやか、心地よい、楽しい」と感じることができる道づくりをテーマとして命名したものです。



**都市と地方の  
道路整備の  
格差解消を**



会長／リレーフォーラムでは、どのような意見が出たのですか。

中崎／いろいろな意見があった中で、まず一つは山陽側と山陰側の道路整備状況の格差についての意見が多かったですね。

山陽側と山陰側の道路整備状況の格差解消は、県の重点項目の一つです。山口県内の山陰側は高速道路がなく、JR山陰線もJR山口線も高速化が進められていないことから高速交通網から取り残されており、以前から高速道路網の整備が強く求められてきました。

高速自動車道は国の最も基幹的な施設であり、今後も国及び地域の社会・経済活動の発展を支えるため、国の責任において着実に整備を進めていただきたいと思っています。

会長／山陰側の高速自動車道は、確かに欲しいですね。陰陽



連絡道路の整備も遅れているため、山陰側から山陽側の空港へ行く際、どれくらいの間がかかるかが読めません。空港を

利用するには、そこに行くまでの時間が読めないという。島根県の石見空港の方が近いという地域もありますが、飛行機の便数が少ないという問題もあります。リレーフォーラムではほかになんか意見がありましたか。

中井／バリアフリーの道づくりを進めて欲しいという意見も多かったですね。

山口県では新たな道路整備計画の目標として4つの柱を掲げています。

まず1つ目は「県民参加のみちづくり」、2つ目は「広域交流を進めるみちづくり」、3つ目は「地域の自活を支えるみちづくり」。そして、4つ目が「人と自然を大切にのみちづくり」。この4つを来年度からの新しい道づくりの目標として取り組んでいきます。

**山口県の道路整備は  
本当に他県よりも  
進んでいるのか？**



会長／リレーフォーラムでのさまざまな意見を聞いて、どのようなことを思われましたか。

中井／私は6会場全てに行ったのですが、意見や要望は地域ごとに異なっていましたね。例えば萩会場では山陰自動車道や小郡萩道路などへの要望がとて高く、その一方で都市部の会場では渋滞対策への要望がとて高かった。ただ意見や要望が自分たちの地域中心となるのはやむを得ないかもしれませんが、中には山間部の道路はもつやらくていいから自分たちのところを進めてくれといった意見が出たのは、さびしかったですね。もつと全体的な視野で考えていたかどうか、というのですが。

会長／東京などの都会でも同じだから地方の道路整備はもう進めなくていいという考え方になる人が都会には多い。でも、野



会長／特に山陰側の町村間を結ぶ道路の整備状況は、まだまだではないかと思うのですが。

中井／整備が進んでいるのは幹線道路だけで、中山間地域はまだまだの状況です。他県からの観光客の方々が通られるのは幹線道路だから、それで山口県の道路はいいと思われるのかもしれませんが。

菜や米は地方の道路や高速道路を通じて都会へ運ばれているんだというのを、都会の人に分かっていただきたいですね。山口県の場合、国道や高規格幹線道路の整備に比べて、県・市町村道の整備はまだ遅れているのではないのでしょうか。

**特集  
対談** 聞く／語る／



中井／その通りですね。これから市町村合併を考えるに当たって、そうした道路の整備を進めていく必要があると思います。

会長／他県に行く、財源の豊かな市町村とそうでないところでは、市町村の境界線を境に道路整備の状況が、はつきりと違うところがあります。

市町村合併で市町村が大きくなることによって、今まで整備されていなかった道路の整備が進められていく可



能性はあるのでしようか。中崎／道路は市町村の生命線。国は市町村合併支援ということで道路整備を進めていきたいということ。中井／今回のリレーフォーラムを行った結果、あらためて道路整備によせる県民の期待の大きさが分かりました。人口の減少と少子高齢化が進む中、車が唯一の移動手段となっている山口県では、暮らしを守り地域の活性化を図るための最低限の社会基盤として、道路整備は必要不可欠なものです。最近の道路に関して、交通量や採算性といった「費用対効果」の面だけが、議論されていますが、道路の役割は、それだけではない

**道路の役割は「費用対効果」だけでは計れない**

会長／県民の皆さんの声を生かして、今後どのような道路整備を進めていきたいとお考えですか。

中井／今回のリレーフォーラムを行った結果、あらためて道路整備によせる県民の期待の大きさが分かりました。人口の減少と少子高齢化が進む中、車が唯一の移動手段となっている山口県では、暮らしを守り地域の活性化を図るための最低限の社会基盤として、道路整備は必要不可欠なものです。最近の道路に関して、交通量や採算性といった「費用対効果」の面だけが、議論されていますが、道路の役割は、それだけではない



が必要だと思っています。

会長／きょうのお話はどれも大変興味深く、我々建設業界の人間にとっても考えさせられるものがありました。

道づくりなどの工事においても、これまでの車中心から人中心のあり方へ、また自然環境への配慮ももっと心がけていきたいと思っています。

本日は、どうもありがとうございました。

中崎／山口県の場合、広島・福岡といった大都市と違った道づくりが必要と考えられます。これからの地方の道路は、地域の実情に沿った整備を進めることがとても重要で、国の画一的な規格・規模でなく、弾力的に地域の実情にあった適正な規格と規模の整備をおこなっていくこと